

酒もタバコもコーヒーも、飲まず吸わずに活動中

【月刊発行をめざす、江戸川区議会議員田中けんの政治活動報告書】

月刊

田中けん

区議会「民主・みんな・維新」

3号連続特集！「第3回定例会一般質問」

3号連続特集!!

第3回定例会
代表質問

2014年9月29日

1回目の代表質問で9項目全てを質問したのですが、時系列の掲載では、第1号の紙面は質問文だけになります。第2号・第3号では、質問と答弁が別々に記載されます。これでは読みにくくなるため、読者が分かり易いように、表記上の構成は一問一答形式に組み替えました。1号につき3つの質問と答弁を、3号連続で掲載します。

質問1：自然災害、
平成26年8月豪雨に関して

9月2日に木曾の御嶽山が噴火しました。これによって、心肺停止になった方が31人いるとの報道がありました。内、4人の死亡が確認されたという報道もあります。まだまだ現在進行中の災害であり被害実態を伝える数字は刻々と変わっていくことでしょう。

先の「平成26年8月豪雨」は、日本全体に甚大なる被害を与えました。台風1号と12号によって、6名の方がお亡くなりになりました。また8月16日からの大雨は、広島土砂災害を引き起こし、7名の方がお亡くなりになりました。あわせて8月24日には、北海道北部で記録的な大雨があり、礼文島で2名の方がお亡くなりになりました。その他にも、石川県で1名、京都府で2名、兵庫県で2名、福岡県で2名の方々がお亡くなりになっています。

これらの災害とは別に、同じく8月1日には、神奈川県のキャンプ場で、車で川を渡ろうとした家族4人が流され、内3名がお亡くなりになっています。

災害や事故に遭われた全ての方々に、お悔やみとお見舞いを申し上げます。

このような災害は、いついかなる時に起こるのかわかりません。今年の8月豪雨では、たまたま被害のあった礼文島に私はいました。現地で見聞きした体験を通じて、豪雨被害について考えてみます。

☎総合連絡先：03-3248-0888

弁護士による無料法律相談受付中

田中けん集会＊百語

11月30日(日)13:00～「読書会」
司馬遼太郎「街道を行く」を読み、解説します。
参加費：1,500円(飲酒希望者は3,000円)
場所：田中けん事務所(詳しくは4ページ目に！)
※食事付きの集会です。
※集会参加希望者は、事前連絡をお願いします。

ご案内

墨田川高校ビジネス交流会「忘年会ライブ」＊
日時：11月26日(水)19:30～ 会費：4000円程度
場所：下町食菜だいどころ
墨田区両国3-24-1尾崎ビル1F TEL03-3633-0927
※墨田川高校卒業生は、気軽にご参加ください。

お誘い

11月27日(木)16:00～、12月18日(木)16:00～に衆議院第二議員会館にて鈴木宗男氏が主催する「東京大地塾」(参加費無料)にご一緒しませんか。
※参加希望者は、事前にご連絡ください。

北海道地図

8月23日から翌24日にかけて、北海道北部は局地的大雨に見舞われました。24時間雨量は183mmでした。

23日に島北部の宿に泊まった私は、港から稚内に向けて出発する朝一便の船に間に合うように、7時30分の宿からの車に乗り込みました。私の目的は、船に乗ることではなく、島抜けする人の見送りと、帰路で立ち寄るコンビニで、その日の昼食をかうことでした。

この雨が尋常ではないことは朝からわかっていました。それでも一便で帰る客を乗せた宿の車は、フェリーターミナルに向けて走らざるを得ません。豪雨の中、車は順調に走り続けていましたが、フェリーターミナルまであと5キロメートル付近で、通行止めに会いました。礼文島は、南北に長い島です。南北をつなぐ車道は東側の海岸線沿いに1本しかありません。その道が、山から流れてくる川の水の氾濫により、通行止めとなってしまったのです。

結果的には重機が出動して、濁流によって寸断された道の障害物を取り除いたり、濁流を食い止めたりしてくれたおかげで、通行できるようになりました。(2ページへ)

箇所通行できるようになっても、またその先の川が氾濫はんらんしていたりして、フェリーターミナルまで3回は立ち往生らんしたと思います。濁流化して道に氾濫した水流を、ワゴン車は横切りました。アスファルトが濁流によってえぐられ、道は砂利道の水中毒道となっていました。路面にできた凹凸にタイヤを取られ、車体を左右に揺らしながら進む車は、さながらアフリカの荒地でも走っているかのようでした。

通常ならば北部から南部の港まで45分ほどで到着する予定が、90分以上もかかってしまいました。当然、朝一の船には間に合わず、私たちはしばらくの間、フェリーターミナルで立ち往生することとなりました。

この様な体験を通じて、2点の疑問を感じました。フェリーターミナルから2.1km離れた場所に、島内唯一のコンビニであるセイコーマートがあります。そのわずか2.1km間でも、川の氾濫により、車道は寸断され、通行止めになりました。08:15着のフェリーで到着するはずのコンビニ配送車が、コンビニまで到着できなかったのです。

稚内と礼文島を往復するフェリーは、朝一の08:13に到着します。そのフェリーの出発時間が08:40です。25分間の時間差を使って、商品をコンビニに届け、来た船に乗って稚内まで帰っていくはずの配送車は、その日だけはコンビニに商品を届けることなく、稚内に帰ってしまいました。

当時、稚内に行く客と一緒にフェリーターミナルで待機していた私ですが、その後臨時の二便が出るアナウンスを聞いて、安心して宿への帰路を急ぎました。

その途中、先ほどのコンビニに立ち寄ったのが1時頃でした。そこではじめて、当日の商品がコンビニに届いていないことを知りました。1時時点では、おにぎりやお弁当など、昨日の売れ残り分がありました。あとでわかったことですが、その日は1時頃に商品がなくなり、その時点でシャッターを降ろし閉店したとのことでした。

来た船で帰ることが日常化していた配送車にしてみれば、コンビニに商品を届ける使命が不調に終われば、何が何でも商品を届けることよりも、時間通りに帰ることを優先しての行動かもしれません。

しかし、それは人道的見地から見て、被災地にとって最良の判断だったとは言えません。この様な場合、どのように配送車が行動すべきだったのか、そこに行政は関わらなかったのか、島民が考えるべき課題になったと思います。

またフェリー乗り場には、災害支援型の自動販売機が設置されていました。しかし、その自販機は飲料水を無償で配給することのない、ただの自販機でした。礼文島では50年に一度と言われる大災害です。それにも関わらず、飲料水が無料配布されない災害支援型の自動販売機に、何の存在意義があるのでしょうか。

これら2点の疑問を、諸条件の違いはありますが、江戸川区に当てはめて考えてみましょう。

コンビニの配送車など、日常的に物資を供給する車が、激しい渋滞などの理由により、目的地まで到着できず立

ち往生せざるを得ない状況になった場合、社会全体の利益を考えて、どのように行動するのが正しいことなのでしょうか。

とりわけ私の興味関心は、賞味期限が短い食料品についてであります。民間の行う日常的な物資の搬送ではありますが、それらも含めて、緊急時の物資の配送体制について、現状ではどうなっているのでしょうか。今後の対応に課題は無いのか、お答えください。

江戸川区にも災害支援型の自動販売機が設置されています。これからもその増設が望まれますが、はたしてその自動販売機が、実際に災害時において正常に機能するのでしょうか。誰が決定権を行使できるのでしょうか。

江戸川区にも業者と結んだ協定書があると思います。その内容を明らかにしていただき答弁してください。

質問1に対する答弁(1)



多田 区長

礼文島におけるご体験によっていろいろ感じられたこととお話くださいましたが、災害時に荷物の配送車、あるいは自販機だけの問題だけでなく、どういう状況になっていくかということは、なかなか想定しにくい場面が多々あると思います。

協定によって、このようなときにこういうふうにしてほしいということを約束を取りつけて、そのようにしていただくということが、まずは何より重要なことだとは思いますが、それがその状況の中でできるかどうかということは、また別問題になってくるということが多々あると思われます。

経験したことで申し上げますと、3.11の震災のときに庁舎の煙突が倒れそうになりました。クレーン車を手配をするということで、自衛隊その他にいろいろとかけ合いましたが、あるところでクレーン車はある、しかし、ドライバーが来ることができないというような状況があつて、そのようにいろいろな状況が起きてくるので、一概にこうしておけばということはなかなか難しいんですが、先ほどの事例からすれば、そういうことがなかなかそれを解決しておくための手立てを講じておくということが難しいかなという場面もありますが、そういうことはできるだけ少なくしたほうがいいと。

予測できることはとにかくそれを潰していくような手立てを講じておいて、できなければできないことかもしれませんが、もしできれば、こういう場面ではこういう代替策があるとか、ないとか、いろいろあると思うんです。だから、それはもっと丁寧に協定のあるなしにかかわらず、いろいろ考えておくべきことかと思っております。

質問1に対する答弁(2)



浅川 危機管理室長

区で導入しているといいますか、設置をしている自販機がいろいろあるわけですが、これはおっしゃるように協定を結んでいまして、災害が発生したときには、設置者のほうで、要請をして、それは無償で使えるようにしてくださいと、お願いをして約束を結んでいます。

そのときに、業者さんのほうも協力をして無償でいいですよとか、鍵はどうやって開けるんですよとか、そういうこともご指導いただきながら使えるようにするというのが実態ですので、災害の事象によって変わるかもしれませんが、これは自販機の水とか飲料水を使わないとまずいぞという判断が働くときには、それはできることということで今体制を組んでいる。

礼文島の事象とちょっと照らしてどうなるかというのがありますが、そういう実態にあります。

質問2：江戸川区役所～篠崎駅間のバス路線について



田中 けん

江戸川区役所から篠崎駅へ行くバス路線、通称区役所線についてお伺いします。この区役所線ですが、区役所の西側の国道14号線、船堀街道を通らず、区役所東側の細い道路を通過して、行き来しています。

区役所の停留所から出発したバスは、区役所を北上してすぐに中央1丁目番地、8番地、9番地のT字路にぶつかります。そこをバスは右折するわけですが、そのT字路が狭くとても曲がりにくい場所のため、バスが立ち往生することがありました。私はその場面を二度ほど見ています。

その原因は、T字路南西部にある西友の買い物客が、T字路近くに駐車することで発生します。大型車両が無理に右折しようとするれば、その駐車車両と接触してしまうからです。

このような右折できないT字路にさせないためには、まずは西友の買い物客に、T字路付近で駐車させないことが肝心です。ただし、根本的解決策としては、この道路がたった1台の駐車により交通が阻害されてしまうほどの広さしかないことにあります。

これからもこの道がバス路線であるためには、もっと道路を広げるか、または9番地のマンションの角を隅切りして、もっと簡単にバスが右折できるように道路の構造を変えることが必要です。これはバスに限らず、大型車両が通行したときにも同様の問題は発生します。いかがお考えでしょうか。

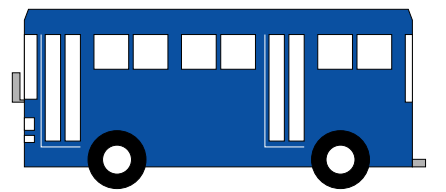
質問2に対する答弁



多田 区長

バスの問題ですけれども、これはバスだけの問題じゃないとおっしゃいましたけれども、確かにそのとおりで、ダイエーの前を通過して、あそこを曲がるところですね。あの隅切りところを地主さんと交渉いたしておりまして、前向きに取り組みますということで考えてくださっているということなものですから、近く話は成立するのではないかなというふうに思っております。

バスの経路はあその286号線、あそこ、今工事しています。あそこができると変わってしまうとは思いますが、バス以外の車のこともありますので、この隅切りはつくっていくと。こういうことになるかと思っております。



質問3：菅原橋のラウンドアバウト化について



田中 けん

菅原橋に対する区民の注目は、以前からありました。古く議会で議論の対象となったのは、平成13年2月20日に受理された「松本学童クラブへの通学路・菅原橋の七叉路を安全に、渡りやすくすることを求める陳情」でした。この陳情では、七叉路という表現から見ての通り、菅原橋が複雑な形状をした交差点である事実を読み取れます。

以前に取りあげた質問ではありますが、あれから随分と時間がたって、区執行部の認識も改まってきたのではないかと思います再度質問するものであります。

ラウンドアバウトの効用は、原則として交差点に信号がないことから、災害時に停電しても交差点が混乱することが少ないことにあります。つまり、災害に強いまちづくりをする基本姿勢に合致しているということです。

交差点とは根源的に危険な箇所なのです。交通事故の割合は交差点で発生するとも言われます。日常的な脅威となっている交通事故を少しでも減らそうとすれば、これからの交差点のあり方は大いに議論されるべきでしょう。

菅原橋のラウンドアバウト化について、区長の見解をお聞かせください。

質問3に対する答弁(1)

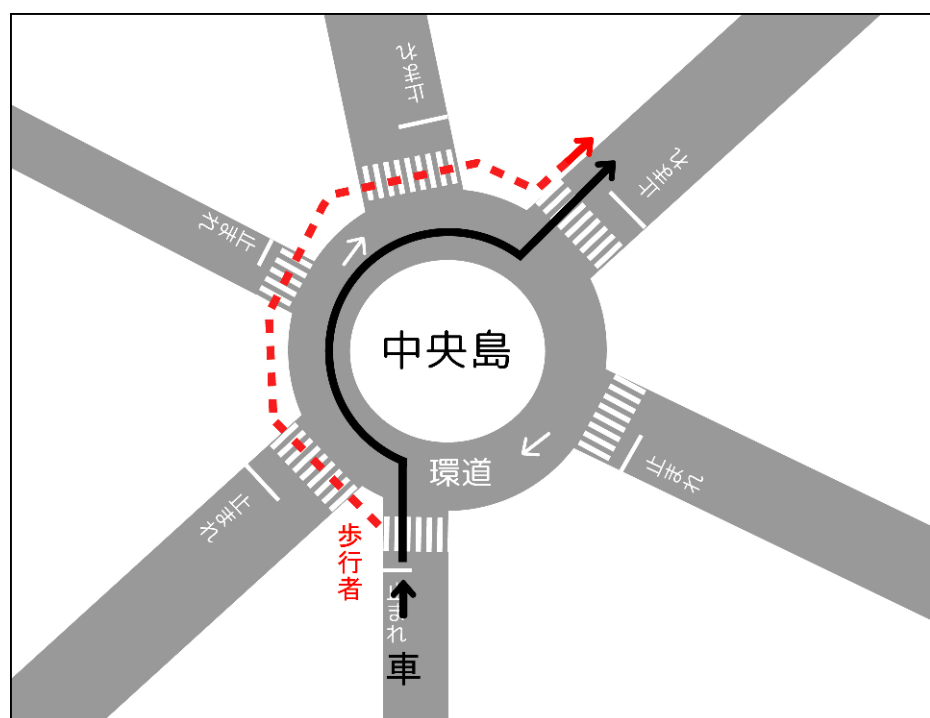


多田 区長

交差点のラウンドアバウト方式ですが、私もオーストラリア、ゴスフォードに行きますとほとんどがそれなんで、どういうことかということは体験的に何とはなしにわかりますが、大体そんなに歩行者がいないところでして、ちょっと市内でそういうところを渡ろうといたしますと、特に私は、朝うろうろ歩いて社会探訪をしているときに、ラッシュアワーに遭いますと、ほとんど渡れないというような時代もあると。こういうようなことで。

これにはですから、いろいろ道路の問題として考え方があると、こういうことで、それが可能な条件というのは大体こういうことだということがあるようですので、それは土木部長からご説明をいたします。

【ラウンドアバウト方式イメージ図】



※ 環道へ進入する前に一時停止をし、右から来る車を優先して合流、時計回りに進んで必要な出口に出る。

質問3に対する答弁(2)



高井 土木部長

区長が申し上げたとおり、当然メリット・デメリットあるわけですが、それらを踏まえまして、国土交通省とそれから警察庁が一定の相談をしながら指針を出してきておりまして、主立ったものの適用条件を申し上げますと、まずは交通量が少ない交差点、これは総流入交通量、その交差点に集まってくる流入量が1日1万台以内のもの。それから、歩行者と自転車の横断交通量のピーク時間あたり100台未満、100人とか100台とか、その程度、いわゆる歩行者や自転車の通行量が少ないということ。

それから、スペース的にはこれは最小の外形が27メートル以上ということですので、大型車が1周回するためには、おおむね直径で27メートル必要になるということですので。

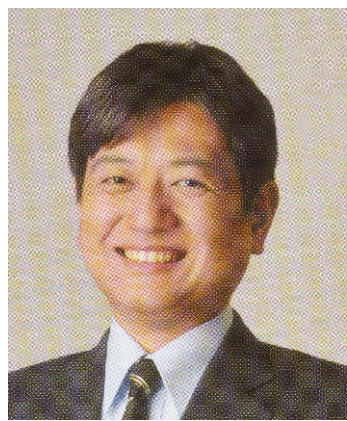
それらを比較いたしますと、この菅原橋の交差点でございますが、総流入交通量でございますが、26,700台でございます。それからピーク時間になります、自転車だけの交通量ですが、時間あたりで200から500台くらい。かなり小岩高校とかございますので、あと役所へ通っている者もおりますが、そんなことで非常に交通量が多いので、この適用は用地的にも、それから交通量的にも非常に難しい。

それと比べて江戸川区内にこういった形式の交差点を採用するのは非常に物理的にも、それから交通量的にも難しいというような判断をしております。

田中けん集会「百語」ご報告

10/26の百語「食事会」は7名にご参加いただきました。開始早々から食事会、その後はフリートーク。インターネットを使った「アニメで学ぶ医学知識」と題しましてのクイズで盛り上がったりと楽しかったです。

広い小中学校の実現 シンプル=小さな政府 特定秘密保護法に反対



江戸川区議会議員

田中けん

www.t-ken.jp



電話番号 : 03-3248-0888 (平日9~18時まで)
自宅事務所 : 〒132-0021 江戸川区中央4-25-14
敷地内奥、白いプレハブ)

＊ プロフィール ＊

松江三中卒、墨田川高校卒、千葉大学教育学部卒
1995年 江戸川区議選 (278票・41位) 当選
1999年 同選挙 (428票・16位) 当選
2001年 東京都議選 (1239票・8位) 落選
2003年 江戸川区議選 (410票・15位) 当選
2007年 同選挙 (388票・25位) 当選
2011年 同選挙 (328票・41位) 当選
著作(共著)「外国人参政権」で日本がなくなる日 宝島社 2010年
100人がしゃべり倒す!「魔法少女まどか☆マギカ」 宝島社 2011年

区議会日台親善議員連盟会長・禁煙地方議連代表幹事・ホームヘルパー2級



古紙配合率100%の再生紙を使用しています